



## 絵本の思い出

私は、この仕事に就いてから絵本をよく買うようになり、多い時には、段ボール箱に2箱分ほどありました。2人の息子が小さい時は、寝る前に子どもたちと布団に入り、絵本を読むのが、私にとっても小さな楽しみとなっていました。その当時は、目の回るような忙しさでしたが、一日の終わりに、ほっとできるひとときでした。時々、絵本を読んでいる途中で眠くなり、「ママ、続きは！」と、起こされたこともありました。眠くなると、読みながら夢の中で物語を作ってしまったようで、「(話が)違う。」と、息子に言われて、ハッと起きたこともありました。同じ絵本を何度も「読んで」と持ってきていた日々でしたので、息子たちの方が絵本の物語を覚えていたのです。

中でも、「しりたがりやのふくろうぼうや」作：マク・サラ 絵：デビッド・ピースー 評論社という絵本は、特に息子のお気に入りでした。1ヶ月間毎日「読んで。」と持ってきた思い出の絵本です。ふくろう親子の愛情あふれるやり取りの最後に、お母さんふくろうが、優しく子どもを抱く場面があり、その絵と同じようにして一日が終わる毎日でした。今でもその当時のことを思い出すと、懐かしい気持ちになります。ふくろう坊やの様々な質問に対して、自分で確かめるように促すお母さんの姿は、ふくろ幼稚園の教育理念にも通じるところがあると思います。そして、「ふくろう」が主役ですので、今あらためて私にとって大切な一冊だと感じています。



自分が持っていた本は、東日本大震災の後、被災地へ送ったので、現在我が家に絵本はないと思っていました。しかし、探してみたら、、、一冊だけ、絵本が見付かりました。

「だいじょうぶ だいじょうぶ」いとうひろし作・絵 講談社 これは、作者のサイン本で、自分の名前入りでした。なんと、今のこの時期に見付かり、とても励まされました。

振り返ると、私の幼い頃にも、家には何冊かの絵本がありました。母が、図書館の仕事をしていたこともあり、よい絵本に出会えたことは、宝だと感じています。大好きな絵本を一部紹介します。

「ゆかいなかえる」文・絵：ジュリエット・パティ 福音館書店

「ひとまね こざる」文・絵：ハンス・アグスト・レイ 岩波書店

「いたずらきかんしゃ ちゅうちゅう」作・絵：バーズ・コリアー・バートン 福音館書店

「しょうぼうじどうしゃ じぶた」作：渡辺 茂男 絵：山本 忠敬 福音館書店

「あなたのいえ わたしのいえ」文・絵：加古 里子 かがくのとも絵本 福音館書店

「きかんしゃ やえもん」文：阿川 弘之 絵：岡部 冬彦 岩波の子どもの本

どれも、私が何度も読み返した絵本で、半世紀前から読み継がれています。お子様が大好きだと感じる本に出合えますように。ご紹介したい絵本は、まだまだたくさんあり、ここには書ききれませんが、最後に一冊。

「おかあさん だいすき」作：マージョリー・フラック 岩波の子どもの本

改めて、このようなたくさんの絵本に出会えたことを幸せだと思い、準備してくれた母にも感謝です。

日頃頑張っている皆様、絵本に限らず、子どものためにしてあげていること全て、子どもの心に「ありがとう」の花が咲いていることと思います。

もうすぐ母の日。母である喜びをしみじみと味わう日になりますように。

